

「もの」から探る日本中世の「ころ」

鎌倉時代から室町時代にかけての中世と呼ばれる時代は、今日につながる伝統的な日本文化の基盤が形づくられた時代でした。畳を敷き詰め床の間をしつらえた部屋、そこで繰り広げられる茶の湯や生け花、あるいは能や狂言といった芸能など、多くの日本文化の要素がこの時代に形成されています。こうした文化を育んだ中世の人々の「ころ」は、当時の生活用具をはじめとするさまざまな「もの」に反映されています。今回の講座では、こうした「もの」に焦点を当て、多様な角度から中世の人々の「ころ」を読み解いていきます。

■日 時：平成 27 年 5 月 30 日・6 月 6 日・6 月 20 日・6 月 27 日（全 4 回）
土曜日 10：30～12：00

■会 場：広島県立図書館会議室（広島市中区千田町 3 丁目 7-47）

日 程	テ ー マ	講 師
5 月 30 日	日本中世の宴会と「かわらけ」	県立広島大学人間文化学部准教授 鈴木 康之
6 月 6 日	文学作品にみる「もの」と「ころ」	県立広島大学人間文化学部教授 西本 寮子
6 月 20 日	中世の祈りとまじない	比治山大学現代文化学部教授 志田原 重人
6 月 27 日	能・狂言に登場する「もの」	県立広島大学人間文化学部教授 樹下 文隆

■受 講 料：無料

■募 集 人 数：35 名

■対 象：どなたでも（原則として全回、出席できる方）

■申 込 方 法：往復はがきで、往信面の裏に、①郵便番号、②住所、③名前、④ふりがな、⑤電話番号を、返信面の表に受講される方の郵便番号、住所、名前（「〇〇様」）をご記入の上、平成 27 年 5 月 14 日（木）（消印有効）までに下の申込先にお送りください。申込多数の場合は抽選となります。受講の可否は申込締切日以降に返信はがきでお知らせします。

※申込にあたってお寄せいただいた個人情報
は県立広島大学公開講座のご案内以外の目的には使用しません。

(返信面の表)	(往信面の裏)
○	①郵便番号
○	②住所
○	③名前
○	④ふりがな
様	⑤電話番号

■申 込 ・ 問 合 せ 先：

〒734-8558 広島市南区宇品東 1-1-71

県立広島大学地域連携センター「日本中世講座」係

電話（082）251-9534（平日 9:00～18:00）

■主 催：県立広島大学地域連携センター、広島県立図書館



講座内容



第1回 日本中世の宴会と「かわらけ」

県立広島大学人間文化学部 准教授 鈴木 康之

古代末から中世にかけての人々は、「かわらけ」と呼ばれた素焼きの土器を宴会の酒盃として大量に消費していました。質素で壊れやすい素焼きの土器が、なぜ宴会の道具として利用されたのか？社会において宴会が果たした役割を分析するなかから、「かわらけ」に与えられた意味を読み解いていきます。

第2回 文学作品にみる「もの」と「こころ」

県立広島大学人間文化学部 教授 西本 寮子

かつて遣隋使や遣唐使によって大陸から多くの文物がもたらされました。そのうちのいくつかは、時代の進行とともに和様化し、日本的な「こころ」をもつ「もの」として独自の展開を遂げました。この講座では、日本文化を代表する「もの」を取り上げ、文学作品をたどりながら、その展開と変化の様相をたどります。

第3回 中世の祈りとまじない

比治山大学現代文化学部 教授 志田原 重人

中世遺跡出土の板塔婆・御札・呪符といった「もの」資料を、秘伝書や祭文などの文献史料、絵画史料ならびに文学作品などもまじえながら解釈することによって、現代生活の原点ともいえる中世に生きた人々の精神生活・思惟の一端を垣間見ます。

第4回 能・狂言に登場する「もの」

県立広島大学人間文化学部 教授 樹下 文隆

能や狂言では、演者が着ける装束や面、囃子方の演奏に使用する楽器の他にも、舞台上に登場する「もの」があります。舞台上に置かれた据え道具の大きな作り物や象徴的な小道具、演者が携帯する小道具などで、内容に応じて舞台に彩りを添えています。その中から、中世の信仰や生活に密着した「もの」を取り上げます。